巻頭言

病院管理者・院長　平　　幸雄

仙台市立病院医学雑誌，第18巻1号の刊行にあたり，巻頭言を述べさせて頂きます。

いま机上に届いた病理科からの第188回，剖検例カンファランスの案内を見ているところです。今回は小児例3例についてですね。いつもながら長沼部長はじめ病理科の皆さん，そして関係者の皆さんご苦労さんです。皆でもう一度剖検の意義を考えてみましょう。

また今回の我が医学雑誌への投稿原稿数は今までになく多く，26論文ですね。内容も充実しているようで，大変嬉しく思っております。各科責任者の他，若手医員，研修医，更にco-medical部門の方々の投稿が目に付きました。指導の先生方，有難とう。皆，今後のいい励みになることは間違いないでしょう。

日常繁多の業務の中，編集委員の方々，本当にご苦労さんでした。今後とも宜しくお願いいたします。

つい先日は病院創立68周年を皆で祝い，いま平成10年度がスタートしたところです。しかし，いま世情は経済の低迷，信じられないような事件の続発がみられ，暗い日々が続いております。まさに世紀末とはこんな事を言うのでしょうか。医療を取り巻く環境も極めて厳しいものがあり高齢化・小子化社会を迎えつつあり，世界に誇っていた医療保険制度の運営も困難が目に見えてきております。このような難しい時代ではありますが，こんな時であればこそ我々医療に携わる者に更なる研究・努力が必要になってくるのでありましょう。医療保険制度は苦しい中でも維持されていくでしょう。そして医療供給体制にも次々と手が加えられて来つつあります。情報の公開，医療内容の説明と同意の更なる努力と実行，療養環境の整備など国民が，患者さんが安心して医療をうけられる体制の整備が求められて来ております。特に我々自治体病院としての役割は益々増加してくることになります。

我が市立病院としては今までのように患者さん中心の医療の提供，高度・先進の医療の提供，急性期疾患を中心にした医療への対応，教育研修の充実，経営の健全化等にこれまで以上に努めて参ろうではありませんか。地域の医療関係者・そして医療関連施設と更なる密接な連携を保ちながら，医療・保健・福祉の向上という大きな目的を達したいものです。職員皆で制定した経営理念，運営方針の実行を常に心掛けていくことが何より重要な事です。そのためには先日受審した病院機能評価審査，講評を頂いた上で，それを大いに参考にして，21世紀に向けた我が病院の姿を胸に描きながら，病院運営を計って参りたいと考えております。

最善の医療を提供する立場を更に強く認識し，日々の研鑽を怠らず，職員皆で次なる課題を提供し合いながら，良きチームワークを築いて参り度いものです。職場環境のより一層の整備に努め，全職員が自分自身の健康に留意して参りましょう。「継続は力なり」。

次の本誌拝読を楽しみにしております。

Presented by Medical*Online